

「事業名：飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」

東京大学 連携市町村：飯舘村

現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

放射能汚染地というハンデを背負った飯舘村の復興には、単なる技術的な除染やインフラの物理的再建だけで終わらず、その先に新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の創設にチャレンジする若者の育成が肝要である。それを踏まえ、本事業では以下の要点を据える。

1. 農業現場に根差し、かつ最先端のICT技術を用いたスマート農業に関する教育研究を実施することで、飯舘村各地に根付いた復興知を携えた国際レベルの超学問領域的研究を醸成し、飯舘村における新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の発信基盤を構築する。
2. 学生を対象とした飯舘村の現地見学会や教育研究活動を展開し、農業実践者の方との交流の中で震災直後から蓄積されてきた知識(大学が有する大学知と現地の復興知)を現場の課題解決と研究活動に展開するFPBL(Field & Project Based Learning)を実践的に試みる。

人材育成目標

本事業では、飯舘村における農を中心とした生活の復興・拡大と復興知の将来世代への継承に資するため、下記を人材育成目標とする。

【小学ー中学世代】飯舘村における農を中心とした生活の歴史と魅力、および民族知を認知し、浜通りの農業とその将来に興味を示す人材

【高校ー大学世代】最先端のICT技術に関する知識を有し、農業現場の課題解決に資する実践や研究活動を行うことを目指す人材

【農業実践者世代】飯舘村各地に根付いた復興知とスマート農業の現場知を、実践する姿を示すと共に将来世代へ引継ぎ可能な人材

2021年度の活動内容

(1) 農を中心とした生活の復興と拡大のための研究プログラム(実地研究とラボ実験による多面的研究)
原発事故以前には活用されていたが除染が行われていない村内里山部の利用再開に向けた検討として、里山がある水田や農地に繋がる河川上流部の土壌状況調査や放射性セシウム分布状況の調査、およびキノコ・山菜の食文化に関する民族知の社会学的調査を実施する。

(2) 復興知の将来世代継承と発展のための教育プログラム(現地体験と交流会およびワークショップの実施)
全国各地の大学生を招聘し、現地における多様なステークホルダー(農家、通いの住民、移住者、道の駅、村役場など)との交流を含むフィールドワークプログラムを実施する。また飯舘村の農業実践者世代と次世代の若者が交流し、共に飯舘村の将来像を描くためのワークショップを実施する。



将来世代と実践者との交流と知識伝承



ICT技術を活用した堆肥作りと調査研究



里山部における放射性セシウム調査

取り組みによって得られる成果

- ・飯舘村における最先端のICT技術を活用したスマート農業の実践と研究の発信が行われる。
- ・小学校から大学生までの将来世代と飯舘村における農業実践者の方との交流と知識の伝承が行われる。
- ・事故後活用が行われてきていない里山部の利用再開にむけた検討に資する学術的知見が蓄積される。